



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
ツムぐ学生

第26号

2017年8月8日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.5

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

8月8日午前 30人が片葩小から移動！

どうして算数教室の会場を変えたのか！？



8月8日の午前9時00分。東浦中学校の校地内を、30人の片葩小学校の児童が歩いていました。引率は、東浦町教育委員会学校教育課の職員の方と片葩小学校の経験豊富なWS P 2人。暑い中でしたが、皆、表情は元気。今からやる「算数教室が楽しみで仕方ない」という様子でした。今年、5年目を迎える「わく算」が、前半の3日間、会場を町の施設に移したのは？それは、

4年間やってきたわく算をいっそう広めたい。いっそう発展させたい

という一心からでした。町当局の思いも汲みながら、中学校に、そして、ほかの小学校にも「広げる」ため。そして「広く地域の人、保護者、町関係者のみなさんに見に来てもらい、知ってもらう」ために、会場を変えたのでした。

その結果、初日だけで町長さんをはじめ、教育長さん、議員さん、保護者の方々、大学の先生方、町の関係者の方々、各校の先生方…、とっても多くの方が見に来てくれました。子どもたちが個を大事にされながら、じっくり算数・数学に向き合っている姿を見ていただけました。東浦町独自の教育施策として、こういう実践を広めることは、東浦町に住む人たちにとって間違いなく「うれしい」ことだと思うのです。

町長さんもあいさつで話されました。「SPさんたちの力を借りて、子どもたちが生き生き楽しく勉強ができるように願っている」。SPさんの力、本当に助かっています。そしてこの事業を軌道に乗せるために支えてくれたすべての方々に、感謝したいと思います。子どもたちが生き生き学んでいる姿を見ると、その気持ちを強くせずにはいられません。

東浦中学校竹内稔博先生作成の「わくわく算数・数学教室通信第5号」を「ツムぐ学生」用に改編しました。